



上段：はこわな付近の監視カメラの映像
下段：わな猟で捕獲されたシカ

金網柵の点検。二班に分かれて実施する



電気柵の点検。放電対策が今の課題

金網柵。野生動物がぶつかった痕跡が

町内一丸で獣被害対策

1人の町民のわな猟免許を取得をきっかけに、獣被害対策委員会を立ち上げた油谷町。被害は小さくとも、町全体での取り組みを実践しています。

油谷町では、30年以上前から、町北側の山中に防護柵を張っています。近年は、小規模ながら稲が倒されたり、畑のサツマイモを掘り返される被害が続いています。年に2回の防護柵の点検では、必ず同じ場所が破られている状況でした。「何とかしないといけない」と感じていたと話すのは、油谷町獣被害対策委員会、副委員長を務める宇仁英樹さん。3年前、イノシシ狩りに興味を持ち、狩猟免許を取得し、町の役員OB等の協力を得て獣被害対策委員会を立ち上げました。

活動内容は、防護柵や電気柵の点検、わな猟、そして、獣被害対策の啓発です。昨年度は、月1回の防護柵の点検を実施。点検バッグを用意して応急処置ができるようにしたり、点検報告シートを作り、金網が破られている箇所や、気づいた点などを記録して、メンバーで情報共有をするようにしました。今年度は、町全体で行い、点検の頻度も2週間に1回に増やしました。

た。町内の意識にも変化が表れ始めており、電気柵の台数を増やし、草刈りの回数も増やしました。今は、電気柵の放電による無駄を減らすために、電気柵の管理方法のデータ分析を試みています。

有害獣と人間の数は反比例の関係で、昔と違い、今は動物との境界線がなく共存している状態です。防護だけではなく、わな猟による捕獲で個体数を減らすことを目指しています。わな猟の仕掛け付近に設置しているカメラを見ると、シカやイノシシが来ているのは確かですが、動物も慎重です。捕獲数は思うように伸びません。それでも、少しでも被害を減らすために、日々撒き餌の配合などの研究を重ねています。

山は繋がっているの、今後は町の枠を超えて情報共有などをして獣被害対策を出来るのが理想。「野生動物に入られたら仕方ない」では終わらず、とにかく愚直に活動を続けていきたいと宇仁さんは話します。



荒瀬会長

山を守る仲間が足りない

今、ハンターは全盛期の4分の1程度。担い手不足の現状とハンターを目指す人の心構えを猟友会の荒瀬会長に聞きました

ハンターへの道のり

問合せ：農政課 ☎ 8718

1 「狩猟免許」を取得する

狩猟免許は、猟法に応じて4種類住所地の都道府県知事が行う試験に合格すると免許を取得できる

試験前には講習会が行われ、狩猟に必要な事を教えてもらえる

- ・網猟免許
- ・わな猟免許
- ・第一種銃猟免許（装薬銃・空気銃・圧縮ガス）
- ・第二種銃猟免許（空気銃・圧縮ガス）

2 「銃砲所持許可」を取得する

①講習会を受講し試験に合格する
②警察による各種調査が行われ許可を受ける

3 猟友会に加入する

狩猟者登録申請などの手続き代行やハンター保険に加入しやすくなるメリットもあります

4 猟具(猟銃・わな)を所持する

5 狩猟者登録をする

出猟したい都道府県に申請する

山を守り続けるために
猟友会の会員数は多い時には、261名いました。現在は、71名になり、平均年齢は65歳を超えています。その上、銃猟の免許を持つ50代以下の会員は、数人程度です。銃猟では、初期費用が50万円程度かかることや、危険も伴うこともあり、家族からの理解を得ることが難しく、二の足を踏む人が多いのも課題です。また、一人前のハンターになるには最低10年かかります。このままでは、農家から要請が出て、対応できる人が

いなくなってしまうので、若手の育成が急がれます。
動物の命をいたたく狩猟では精神面の負担も大きいです。だから、何よりも猟に興味があることが大事。そして、猟へのやる気と努力を惜しまない姿勢も。好例は、猟友会に入ってから、一度食べたジビエのおいしさから、猟に興味を持ち、先輩ハンターからのアドバイスで猟の型を身につけている真つ最中。積極的に猟に出て経験を増やし、腕を上げています。彼女に続く仲間が増えたら嬉しいです。

だれでもできる

獣被害対策



000000
みんなで
地域を守ろう

すべてのシカやイノシシが、農作物に被害を与えているわけではありません。有害獣の駆除により、個体数が減らせたとしても、人里の方が快適だと感じる野生動物が1頭でもいれば被

害は起こってしまいます。イノシシやシカが人里に出てくる防ぐことが、被害を減らすポイントです。
そのためには、住民のみならず、人の力が必要です。

対策②

無意識の餌付けをなくす

畑に捨てた野菜くずや、稲刈り後に生えてくる、ひこばえも動物にとって、おいしい餌です。野菜くずは土に埋めるなどして適切な処理をする。ひこばえから穂が出る前に耕しましょう。

対策①

金網柵の点検とメンテナンス

金網は、自然の中に設置されているので、動物に破られたり、劣化などもおこります。
月1回以上の点検とメンテナンスで金網柵の効果はアップします。